

FAN通信

Facilities Associate Network

Vol. 44

NOV 2005 / 配信先：2,031名

Facilities Associate Network (FAN) は、リンクアンドモチベーショングループがお取引をさせて頂いている企業の経営者・ファシリティ関連のご担当者等を中心に構成されているネットワークです。

働く人ひとりひとりが、その能力を最大限に発揮できる仕事環境の支援は、“元氣な会社づくり”に欠かせないアプローチだと考えます。企業におけるファシリティマネジメントの機能向上、ご担当者のみなさんの企業内での活躍を支援するために、FANは誕生しました。

この「FAN通信」にて、プレースマネジメントに関する様々な情報を発信させていただきます。みなさんの日々の活動のヒントとして頂ければ、幸いです。(佐藤)

株式会社リンクブレイス
発行人：佐藤 浩也
編集長：松波 靖子
〒104 0061
東京都中央区銀座3 7 3
銀座オーミビル
Tel. 03-3538-8667
Fax. 03-3538-8668
e-mail fan@lmi.ne.jp



Contents



株式会社物産ナノテク研究所 ————— p.2
株式会社物産IP
(新御茶ノ水)
次のステージを支えるオフィスづくり



大型ディスプレイによる情報発信 ————— p.4
「効果的な情報告知」を実現するために

Information

11月17日(木)深夜0:00、ボジョレー・ヌーヴォー解禁！
- LINK DINING.FR より ご案内 -

解禁と同時に誰よりも早く、ボジョレー・ヌーヴォーで乾杯しませんか？日本では日付変更線の関係でフランスよりも早く飲むことができます。2005年の採れたてのワインを楽しみにいらしてください。当店では、お薦めのボジョレー・ヌーヴォー3種とシェフの特別メニューをご用意して皆様のご来店をお待ちしております。

自然派ワインの造り手・・・マルセル ラビエール ¥7,000 (glass¥1,000)

自然派ワインの造り手・・・フレデリック コサル ¥7,000 (glass¥1,000)

伝統的な造り手・・・ジョセフ ドルーアン ¥6,000 (glass¥ 900)

(ヌーヴォーは売り切れ次第終了致します。お席のご予約をお薦めします。)

食前のドリンクを、お一人様につき一杯プレゼント!!

ご来店時に、「FAN通信を見た」とスタッフに伝え、名刺を一枚お渡しください。(2005年11月末迄有効)



LINK DINING.FR
東京都中央区銀座8-7-22
第23ポールスタービル2階
TEL: 03-5537-0909
月～金 18:00～3:00 (L.O.1:30)
土 18:00～23:00 (L.O.22:00)

次のステージを支える オフィスづくり

プロジェクト
事例紹介

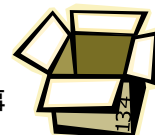
株式会社物産ナノテク研究所/株式会社物産IP (新御茶ノ水)

ナノテクノロジーをキーワードに、国内外を問わず幅広く産学官とコラボレーションし、研究開発から事業化までを目指す株式会社物産ナノテク研究所(XNRI)様と株式会社物産IP様。今回、設立以来2回目となる東京事業所オフィス移転プロジェクトをお手伝いさせていただきました。(澤田)

移転の背景

2001年7月の設立から約4年、複数の拠点の立ち上げや会社の統合、組織変更などを行いながら徐々に会社の拡張を続けてきた株式会社物産ナノテク研究所と株式会社物産IP。遂にここ数年続けてきたナノテクノロジーに関する研

究成果を事業化するステージにきた。事業化の動きに向けてシフトする転換期を迎えるにあたり、新たなスタートを切るために今回の東京事業所の移転を決断したのである。



今回のオフィス移転におけるテーマ

主に以下の4点をテーマに挙げている。

次のステージの象徴となるオフィス構築
来客者に対する情報発信
スペースの効率化と什器流用による
コストダウン
交通アクセスの改善

事業化という次のステージという意味合いから、いままでの空間テイストを残しつつも、研究所としてのインテリジェンスと来客者をお招きするた

めの温かみのある雰囲気にすることを目指した。

来客者に対しては、「ナノテクノロジー」という目に見えにくい商品や仕組みをどのように伝えるかという点を工夫し、実際に開発した商品が展示できるショーケースやパネルを接客エリアにふんだんに設置し、積極的な情報発信を目指した。又、来客者に発信する自社のブランディングを大事にし、ホテルのラウンジを彷彿させるような木目を基調とした空間にすると共に、ステンレスの素材を使用することで、先進的でシャープな印象も取り入れた。

【接客エリア】



【左】エレベーターホールに設置したサイン。【中・右】受付エリア。ホテルラウンジを彷彿させる落ち着いた雰囲気に仕上げた。



【左】会議室「ZEBRA」。円形のテーブルが会話を弾ませる。【中】ショールーム機能も兼ね備えた会議室。【右】廊下に展示された商品やパネル群は来客者への情報発信として機能する。

大部屋タイプが多かった会議室は使用頻度を見直した。機能を特化し使用目的別に分けることでスペース効率を上げた。併せて執務エリアのデスクサイズの見直しや不要書類の廃棄、外部書庫の活用を行なうことで、スペースの削減を実現した。

立地については、現在つくばにある本社及び研究所と、大手町にある親会社の三井物産株式会社へのアクセスを考慮に入れ、便の良い御茶ノ水を選定した。入居ビル選定においては、ビルの様々な要件を反映した比較表を作成。これらを検討した上でビルを決定した。

【執務エリア】



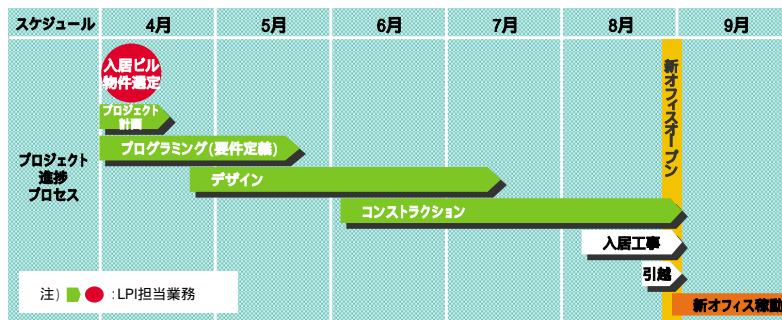
【左・中】スペース効率を上げるために執務デスクのサイズを見直した。また、より集中して仕事をするために、パーティションもデスク間に設置。【右】社内用のサロン。大学の教授達が来社した際の、執務用スペースとしても活用。

効率的で快適性の高いオフィス

2005年4月からスタートしたこの東京事業所オフィス移転プロジェクトは、入居ビルの選定から入居後の運用が軌道に乗るまでの約5ヶ月に渡るプロジェクトとなった。8名ほどのプロジェクトチームで定期的にミーティングを行ない、関係者各位とベクトルを合わせながら進められ、2005年8月に無事オープンを迎えた。

出来上がったオフィスは、スペースがほぼ半減したにも関わらず、今後の新しいステージにふさわし

い、効率的で快適性の高い明るい雰囲気のおフィスに仕上がった。



ご担当者の声

株式会社物産ナノテク研究所
取締役
七田良彦様



三井物産株式会社
株式会社 物産ナノテク研究所
株式会社 物産IP

<http://www.xnri.com/index.html>

・本社所在地
〒305-0074
茨城県つくば市高野台2-1
三井物産(株)ナノテクパーク内

・設立
2001年 7月

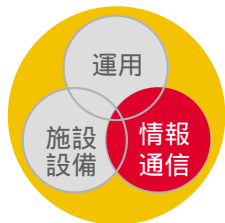
・事業内容
ナノテクノロジーをキーワードに、異分野融合の独自の技術を開発し、将来の環境、化学、エネルギー、バイオ、食品、情報通信産業に貢献するテーマにフォーカスする三井物産株式会社が100%出資する研究開発ベンチャー

LPI社のご提案にて立ち上げた前回のオフィス(日本橋浜町)が、非常に好評だったこと(和風応接室、サロン等)もあり、今回のオフィス移転に際しても、LPI社を起用することといたしました。

今回のオフィス移転プロジェクトは、会社の変化に伴い、オフィスの利便性の更なる向上を図りつつ、年間のオフィスランニングコスト等を削減するという、異なるベクトルを同時に満足させるという難しいプロジェクトでした。また、本プロジェクトに投入できる経営資源(予算、人材、時間等)も、限定的とせざるを得ない背景のなか、LPI社の参画なしには、本プロジェクトの遂行は困難だったと実感しております。

オフィスレイアウトやデザイン、家具選定等の諸作業においてもクライアントとの対話に重点をおかれており、完成した新オフィスは当方の期待水準を越えたものとなりました。

日々の業務のプラットフォームとなるオフィスは、日々形を変えて発展することが期待されます、ですので、LPI社には、今後とも継続的なアドバイス、支援活動を期待しております。



「効果的な情報共有」を実現するために

大型ディスプレイによる情報発信システムの御紹介

ワークプレイス
知恵
ぶくろ

電子メール/イントラネットの普及は、「社内への情報告知負荷の軽減」を実現した一方、「社内を流通する情報量の激増」をもたらしました。せっかく告知された情報も、受信者に的確に認識されなければ、期待した成果を得る事はできません。今回は、効果的な情報告知が行えるツールを御紹介します。(永野)

電子メール/イントラネットで十分？

例えば受信者に適切なアクションを促すためには、適切なタイミングで「忘れていませんか?」といった注意・記憶喚起や、「〇〇を見てください」などの情報へのアクセス誘引を目的とした発信を繰り返し行うことが重要です。これらは口頭などのリアルコミュニケーションでは気軽に行えるアクションですが、電子メール/イントラネットは共に苦手とするものです。なぜなら電子メールは同時・大量の情報発信が行うことが可能であるツール(PUSH型)ですが、確認行為を情報の受信者に委ねているため、発信頻度をあげることが確実な効果を生むとは限らず、返って個々の情報に対するアテンションを低下させる恐れがあります。一方イントラネットは受信者の要望に基づく情報確認が可能なツール(PULL型)ですが、受信者として期待される人が情報へアクセスする保証はありません。



ス内の目につきやすいところに配置された大型ディスプレイに、画像(動画)化された情報を、一定間隔で繰り返し表示するものです。

オフィス内の移動時に



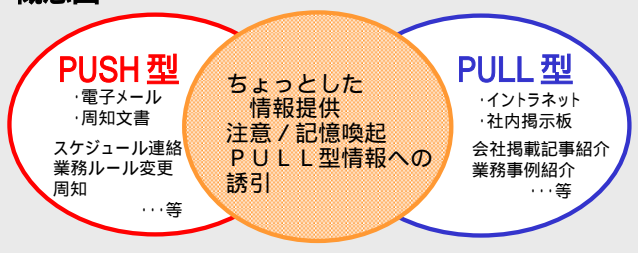
自席から

社員は、ちょっとした視界移動の際に情報の内容を確認することができます。「注意/記憶喚起」や「ちょっとした情報提供」を、情報の受信者の負担なく且つ、効果的に実行する事が可能なのです。

活用例(リンクアンドモチベーショングループ)

当グループでは、大型ディスプレイは社内コミュニケーションにおいて重要な役割を占めています。各拠点の各オフィスフロア内には、情報共有用の大型ディスプレイが2~3ヶ所設置されており、社員はパソコンから顔を上げたりトイレにいったり...といったちょっとしたタイミングで、これらの情報を確認しています。

概念図



大型ディスプレイによる情報発信

前述の電子メール/イントラネットが持つ弱点を補完するツールの一例として、大型ディスプレイ(プラズマ/液晶)を活用した情報発信システムをご紹介します。このシステムでは、オフィ



仕事環境 Workplace



施設設備:
内装・家具レイアウトなどによって構成される空調、設備や様々な装備によって支えられる環境など

情報通信:
PC・ネットワーク・携帯通信端末など、業務を支えるITインフラやITツール、コンピューターシステムの活用による環境など

運用:
入退館・施設利用ルールから、勤怠ルール・評価制度にいたるまで、ワークプレイス利用に関わる決まりごと

私たちの事業対象のひとつに、仕事環境(ワークプレイス)があります。「施設設備」のみならず、「情報通信」、「運用」を含めた統合的なソリューションが必要となります。働く人のパフォーマンスを最大化するためのワークプレイス戦略。ここに、LMIのモチベーションエンジニアリングが活かされます。